

早稲田大学 人間科学部 国語(現代文) 講評

(総合分析)

出題形式	全問マーク式
試験時間	90分(現代文2問、古漢1問)

(大問別講評)

一 評論文。「ヒトと機械」について。出典：廣瀬通孝『ヒトと機械のあいだ』。

(本文字数：約 2400 字 = 昨年より約 100 字減少。設問数：8 = 昨年と同じ。)

小問	難易度	コメント
問一	易	【誤記判別】前後の文脈から容易に判断できる。
問二	標準	【空欄補充】直後の一文、及び、空欄Cの1・2行前との対比から考える。
問三・B	やや難	【空欄補充】直後の「道具」とは人間の能力の拡張を意味する重要語句。
問三・C	やや易	【空欄補充】直後の「ヒトの代わり」が空欄Cの言い換えである。
問四	標準	【空欄補充】前後の文の文末がヒント。ハは言い過ぎ。
問五	標準	【傍線部説明】本文の最後の一文がヒント。
問六・(1)	易	【漢字】「油断できない、用心すべきもの」という意味。
問六・(2)	やや易	【四字熟語】イは「局外中立」。
問七	易	【傍線部説明】傍線部の3・4行前に根拠があり、容易。
問八	やや易	【趣旨判別】文章の前・後半両者の趣旨をとらえているのは口のみである。

二 評論的随筆文。出典：新宮一成『無意識の組曲』。

(本文字数：約 2300 字 = 昨年より約 400 字増加。設問数：8 = 昨年より1問増加。)

小問	難易度	コメント
問九	易	【漢字】2題。同音異字にはふだんから注意する。
問十	易	【脱落文挿入】ハの直後の「だが」、及び、次の行の「その不可能なことをやり直せる」が決め手。
問十一	易	【傍線部説明】傍線部の前後の文脈から容易に判断できる。
問十二	やや難	【傍線部説明】傍線部の3・4行後の記述が根拠となる。
問十三	やや易	【傍線部説明】直前の記述と、後に続く文脈との整合性から考える。
問十四	やや難	【空欄補充】空欄の後ろの文脈で、東ドイツはどういう場所だとされているか考える。イは言い過ぎ。
問十五	標準	【空欄補充】空欄の前後の接続語、及び、整序文中の指示語等から判断する。
問十六	易	【空欄補充】直前の記述、及び、空欄の4行前の「やり直せる」が根拠となる。

(総合コメント・今後の指針)

例年通り、現代文は基本的な設問が中心であった。

大問一は、「ヒトと機械」をテーマにした評論文。読みやすい内容で、設問もそれほど難しくなく、傍線部や空欄の前後の文脈だけで解ける問題がほとんどだったので、高得点を取った受験生が多かったであろう。ふだんから傍線部や空欄の前後をしっかりと分析するという姿勢を身につけるとよい。

大問二は、評論に近い随筆。基本的な設問が多かったので、随筆に慣れていなくてもそれほど苦戦はしなかったと思われる。

早稲田大学 人間科学部 国語(古典) 講評

(総合分析)

出題形式	全問マーク式
試験時間	90分(現代文2問、古漢1問)

(大問別講評)

三 古漢融合問題。出典：古文=源俊頼『俊頼髓脳』、漢文=『荊楚歳時記』。

(本文字数：古文、約800字＝昨年より約100字増加。漢文、約50字＝昨年より約20字増加。

設問数：8＝昨年より1問減少。)

小問	難易度	コメント
問十七・(1)	標準	【主語判定】傍線部2の部分から「采女」の話に戻っていることが読み取れたか。
問十七・(2)	標準	【主語判定】問十七・(1)と同様に、文章の全体像を把握して判断する。
問十八	易	【文脈把握】直後の「心地よろしくなりて」との対比から判断する。
問十九	やや易	【文法・文脈把握】直後の内容とのつながりから、「ぬ」の命令形が入ると分かる。
問二十	標準	【文脈把握】傍線部2の部分から「采女」の話に戻っていることが読み取れたか。
問二十一	標準	【文脈把握】問二十が解ければ、容易に判断できる。
問二十二	やや難	【文脈把握】二が紛らわしいが、直後の内容の全体をふまえている点からホが最適。
問二十三	標準	【古文常識】「七夕」といえば「乞巧奠」。
問二十四・(1)	標準	【返り点】やや複雑だが、使役形が分かっているれば、それほど難しくない。
問二十四・(2)	やや易	【文脈把握】口と迷うかもしれないが、「丈夫」の意味から判断すれば容易。

(総合コメント・今後の指針)

大問三は、『俊頼髓脳』。単語のレベルは低いですが、そのぶん文章の全体像を把握できないと解けない設問が多く出題された。ふだんから、省略されている語句を補いつつ、じっくり読む、という練習をしてきた受験生は高得点がとれたであろう。高校や予備校の授業を大事にして、基礎をしっかりと身につけてもらいたい。